

まずわが身を正そう

「畑の苗は、肥えた土の中で日光と水とに恵まれさえすれば、ほっておいても立派に育つ。しかし良い手入れをするなら、なお一層立派になるだろう」と私は申しました。それを教育の上に当てはめて考えてみたいと思います。

肥えた土、日光、水……これらは、子供の環境が、教育的に十分に整備されていることに当たると思います。ただ、前者はその条件を努力だけで良くすることは、ほとんど不可能に近いものがありますが、後者は努力によってかなり良くなる事が出来る、という違いがあります。

しかし、畑には、日当たりの良い肥えたものがあり、反対に山かげのやせた畑もあるように、親の教育的配慮とは無関係に、その子どもの環境が十分に整備されている場合もあれば、親の努力にもかかわらず子どもの環境が思うように良くなる場合もあります。

だから、親が教育に熱心なのにもかかわらずその子供がなかなか良くなることある反面、親が教育に無関心なのに子供が良くなることあるわけです。しかしそれは、それぞれにそうなるべき理由があるからであり、ほっておいた方が良いということには勿論なりません。やせた土には肥料をやり、水に乏しければ汲んで来てやるように、子供の環境が悪ければ、これを少しでも良くしようとする努力が必要です。

しかし、最も必要なのは“雑草を抜き取る”という仕事だと思います。それは、わが子にとって為にならないものを遠ざける、ということに当たるといえるでしょう。悪い遊びや悪い生活態度を禁じ、悪い漫画や悪いおもちゃを遠ざける、ということは勿論必要ですが、それよりも私は、親の悪いマナーを子供に見せないように努力する配慮が、何より大切だと思うのです。

子供というものは、話し方、笑い方から、咳の仕方一つに至るまで、実によく親に似るものです。それは、遺伝ということもあるでしょうが、それ以上に、毎日毎日親の言動を見聞きしているから、それを自然と真似するのだ、と私は思います。

「子供は模倣の本能がある」と言われていて、事実、子供は身近な人の言動を常に手本に、それを真似せずにはいられないものが、あるように思われます。だから、親が、毎日“せっかち”の手本を見せていますと、子供も、必ず“せっかち”になります。

つまり、子供の欠点は親が作ってやったようなものです。ところがたいていの親はこのことに気がつきません。子供の欠点をとがめ、これを改めるよう子供に求めますが、親自身が欠点を改めない限り直りません。

だから、親は自分の言動について、常に反省をして、わが子に真似られたくないような自分の欠点は、これを子どもの前では絶対に見せないように努力する心構えが、ぜひとも必要だと私は思うのです。